



千年の歴史

田遊び

近郊農村として発展してきた赤塚・徳丸地区には、旧正月にその年の五穀豊穡と子孫繁栄を祈願する神事が千年の昔から受け継がれています。「田遊び」は、赤塚諏訪神社と徳丸北野神社で行われ、ともに国の重要無形民俗文化財に指定されています。



徳丸北野神社

徳丸の田遊びも赤塚と同様に、主導役の「大稲本」、補佐役の「小稲本」と「鉞取り」が構成員となっています。また、その創始以来一年も休むことなく執り行われてきたといわれており、水田が姿を消した今も、昔と変わらずに五穀豊穡・子孫繁栄を祈願する田遊びが継承されています。

徳丸北野神社の田遊び
毎年2月11日(旧暦正月11日)の夜6時頃から、徳丸六丁目(所在する北野神社)で行われます。
長徳元年(995年)、天満宮(現、徳丸北野神社)創建の時に、奉祝行事として地元の田夫(農夫)が「田阿曾美之祭(たあそびまつり)」を行ったのが起源とされています。



赤塚諏訪神社

赤塚の田遊びは、田遊びを主導する「大稲本」と補佐役の「小稲本」、「鉞取り」が構成員となっており、所作をはじめ、笛の演奏なども口伝によって今日まで伝承されています。今でも大門地域の人々によって昔と同様に五穀豊穡や子孫繁栄を祈願して行われています。

赤塚諏訪神社の田遊び
毎年2月13日(旧暦正月13日)の夜7時頃から、大門に所在する諏訪神社境内および境外地で行われます。
その創始の時期については不詳ですが、江戸時代の記録の中には、大昔から行われ、古風が失われていない祭礼と紹介されています。